

倶楽部 趣味

まず私自身が楽しませてもらい、その先に森の出前や押し花教室、多くの仲間がいます。



(名古屋支部)
マルサ株式会社
代表取締役
浦田 恵美子 さん

2009年も残すところ1週間となった12月23日、大府駅から車で10分ほどのあいち小児保健医療総合センターにあるアチェメックの森で、マルサ株式会社(名古屋市緑区乗鞍3丁目112番地)社長 浦田恵美子さんが森の手入れとクリスマス、お正月飾りを作っていると聞き、お邪魔してみました。

アチェメックの森で

本日お話を伺う浦田さんは、押し花が趣味と伺いましたが、その他にも自然と共存する活動をなさっていて、こちらのあいち小児保健医療総合センターでは、年に4回のワークショップを開催されているそうですね。

浦田 はい。4月、7月、10月、そして今日で4回になります。地元の子の皆さんと一緒に森に入って手入れをしたり、季節を感じています。このあいち小児保健医療総合センターには、病院名のAichi Childrens



“環境デーなごや2009”に出展の協会ブースで人気だった押し花コーナー

Health and Medical Centerの頭文字からとったアチェメックという愛称があります。そして、ここにある森をアチェメックの森と呼んで、様々な企画をし、子どもたちに参加してもらっています。

もともと活動を始めたきっかけは何ですか？

浦田 最初は隣地の公園の竹やぶから自宅の庭に侵入する竹を「何とかしたい」と切り始めたことです。竹を切ってみると、このままごみとして捨てるのはもったいないと感じ、何かに生かせないかと雑木林研究会に入会して、森の手入れを教わりました。

庭の手入れからのスタートだったんですね。

浦田 そうですね。15～16年前から始めました。草や花いじりが元々好きだったので、だんだんと仲間が増えてくるとどんどん活動が広がりました。例えば竹の切り方を教えてくれた白石さんは、竹を使ったクラフトを子どもたちに教えてください、療養環境研究会の皆さんに出会って子どもの療養環境に関心を持ちました。

もう、趣味の範疇ではありませんね。

楽しませてもらっています

浦田 いいえ、誰かのためにやっているのではなく、私が楽しませてもらっているんです。こうして皆さんと一緒に活動することで、忙しい仕事の間の息抜きにもなりますし、私自身の健康維持になっていると思っています。

先ほど、他のお仲間にもお話を伺いました。浦田さんは、いつもニコニコと話を聞いてくれ受け止めてくれるんですよ。おいしいお弁当も作ってきてくれて、みんなのお母さんの存在だと伺いました。私もこうしてお話させていただいていると、何だかホッとします。

浦田 ありがとうございます。でも、本当にこちらこそという思いでいっぱいです。私たちは、それぞれの得意分野を生かして子どもたちにいろいろな体験をしてもらいたい、一緒に楽しみたいという思いだけなんです。春にはたけのこや野菜の天ぷらを、夏には流しそうめん、秋には自分たちで収穫した秋の味覚でなべを作る。季節と共に自然とのふれあいを楽しんでいます。

先ほども少しお話が出ましたが、病院内での活動もなさっていますね。

浦田 はい。入院中の子どもやその家族に、非日常的な体験をしてもらい、健康な体に早く戻れるように祈っています。

非日常的な体験と言うと、例えばどんなことですか？

浦田 例えば、森の中の昆虫のスライドを見てもらったり、森で取れた木の実でクラフト制作をします。昆虫のスライドには生態の解説もつき、入院中の子どもも目の色が変わって興味を持ってくれます。外の世界とのつながりを感じてもらえます。

なかなか本物の森に行く機会は少ないですよ。入院中は特に外に出る機会も少なくなりますし。

浦田 そうなんです。ですから「森遊隊」というボランティア仲間と森の出前を行っています。病院の医師や看護師などのスタッフと打ち合わせをして、一人ひとりの子どもに応じた対応も心がけています。

仲間との絆が活動源

医療スタッフも含め、多くのお仲間がいらっしゃいますね。

浦田 クラフトの白石さんを始め、アートセラピーの佐藤さん、NPO法人子ども健康フォーラムの皆さん、雑木林研究会の皆さん、そのほかにも本当に多くの仲間に恵まれています。子どもの健康フォーラムの篠原さんに伺って知ったのですが、世界に目を向けると日本は療養環境が遅れているそうです。カナダなど

では木のぬくもりを生かした療養環境が充実しているそうです。病院の中では、いろいろと制限がありますが、できる限り家庭での環境に近い、自由に散策したり、遊べる環境を提供できるような提案をしていきたいと思っています。

あいち小児保健医療総合センターは、自然の高低差を生かした建物になっているそうですね。それに療養環境を考える点で、子どもたちのために様々な立場の方が智恵を絞ったと伺いました。

浦田 そうなんです。自分たちのやってきた自然との共存、木のぬくもりを感じるという活動が、このような形になり仲間の絆の強さ、喜びを感じます。病院内には、どんぐり君とマロンちゃんというキャラクターが冒険をしている壁面もあり、この病院も森も登場します。そんな壁面を通して、子どもたち自身が冒険をしている気持ちになることができます。こういったキャラクター1つにしても、幼い子どもから思春期を迎える子ども、また家族にも受け入れられるように皆でディスカッションして作られたものです。

お仕事もお忙しい中での活動ですが、とても精力的に取り組まれている印象です。

浦田 いえいえ、自然の中で仲間と汗をかく、これほどの幸せはありません。そこで子どもたちが発揮する本能と個性をこれからも楽しませて



竹や雑木を使ってクリスマスのリースやミニ門松作りを楽しむ子どもやお母さんたち



もらいたいと思っています。

浦田さんのお話を伺っていると、趣味という枠を飛び出し、ご自分のライフワークとして自然との共存を楽しんでいらっしゃるように拝見致しました。誰のためでもなく、一緒に楽しむ…最高の笑顔で語ってくださった浦田さんの今後のご活躍をお祈りしています。